

5 - 9 富士川・駿河湾地方における地殻変動観測 (その 12)

Crustal Movement Observation in the Fuji River and Suruga Bay Area (Part 12)

東京大学地震研究所 富士川地殻変動観測所
Fujigawa Crustal Movement Observatory
Earthquake Research Institute, University of Tokyo

富士川観測所における 1985 年 1 月～12 月の観測結果について報告する。第 1 図に水晶管伸縮計(a), 水管傾斜計(b)の毎日 0 時の読取値を示す。参考の為 1984 年の記録も示す。年周変化, 雨量に対する応答などについては既に報告済みであるが, 1985 年においては 6 月末に観測所近傍を通過した台風が多量の降雨をもたらし, その影響が顕著である。その他, 地震等による変動が目立つものはない。E X T - 3 成分においては 8 月末にセンサーを交換したが, その直後器械的原因によると思われるドリフトが観測された。また, W T T - 2 成分については 11 月頃より異常なドリフトが観測された。これも器械的によるものと思われるので欠測扱いとした。

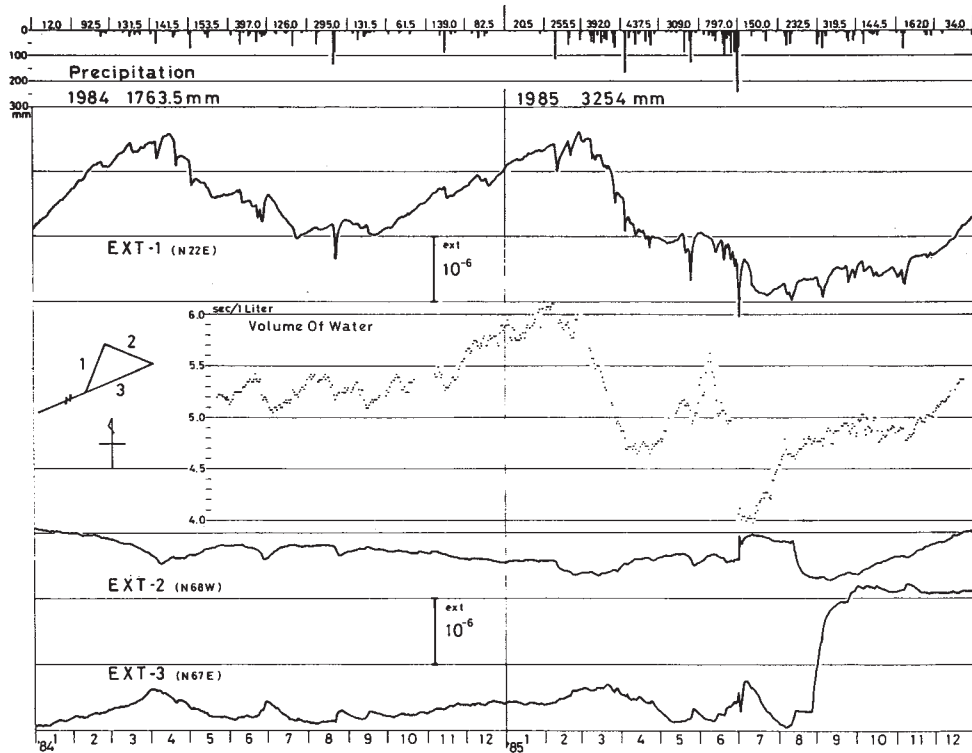
第 2 図に読取型水管傾斜計の月平均値とその 12 ヶ月移動平均値の, 観測開始以来の値のグラフを示す。第 3 図は, 移動平均値に基づく傾動ベクトル図である。前報¹⁾で述べたように 1983 年後半から 1984 年にかけて東北東(坑の長手)方向の顕著な傾斜が見られた。これは 1985 年に入ってかなりの部分回復した。この原因については, 1984 年の降水量が異常に少なかったことによると思われるが, 1985 年の降雨量は平均並に戻っておりこの推測が正しいことを示唆している。

なお, 10 月からは宇宙線を用いた土中水分の測定²⁾を行っている。

第 4 図は, 富士川観測所近傍の地震活動を示す。この地域の地震活動の特長については既に報告済であるが³⁾, 1985 年においては, 特に 10 月終わりから 11 月はじめにかけて, かなり活発な群発活動が奥山観測点直下において発生した。震源の決まった地震の数は約 200 個に達した。

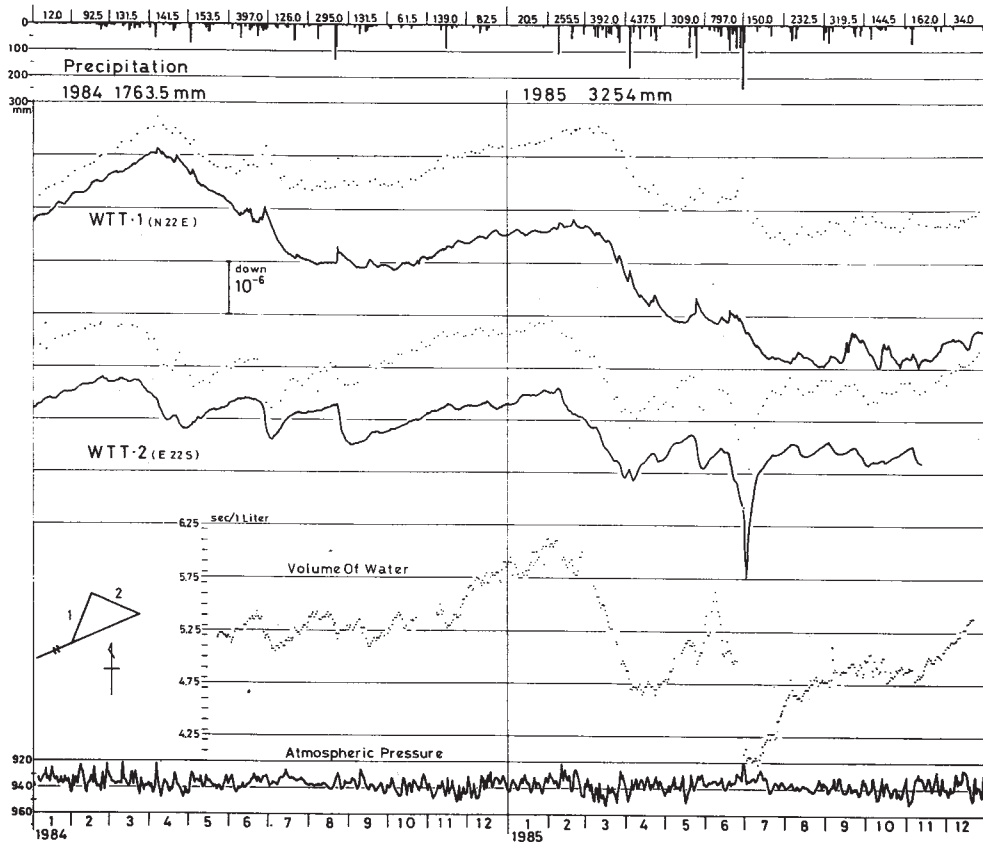
参 考 文 献

- 1) 東京大学地震研究所富士川地殻変動: 富士川・駿河湾地方における地殻変動観測 (その 11), 連絡会報, **34** (1985), 293 - 297.
- 2) Kodama, M., S.Kudo, and T.Kosuge : Application of atmospheric neutrons to soil moisture measurement, *Soil Science*, **140** (1985) , 237 - 242.
- 3) 渡辺 茂, 岡田義光: 山梨県最南部周辺の極微小地震活動 (1), 地震研究所い報, **54** (1979) 317 - 327.



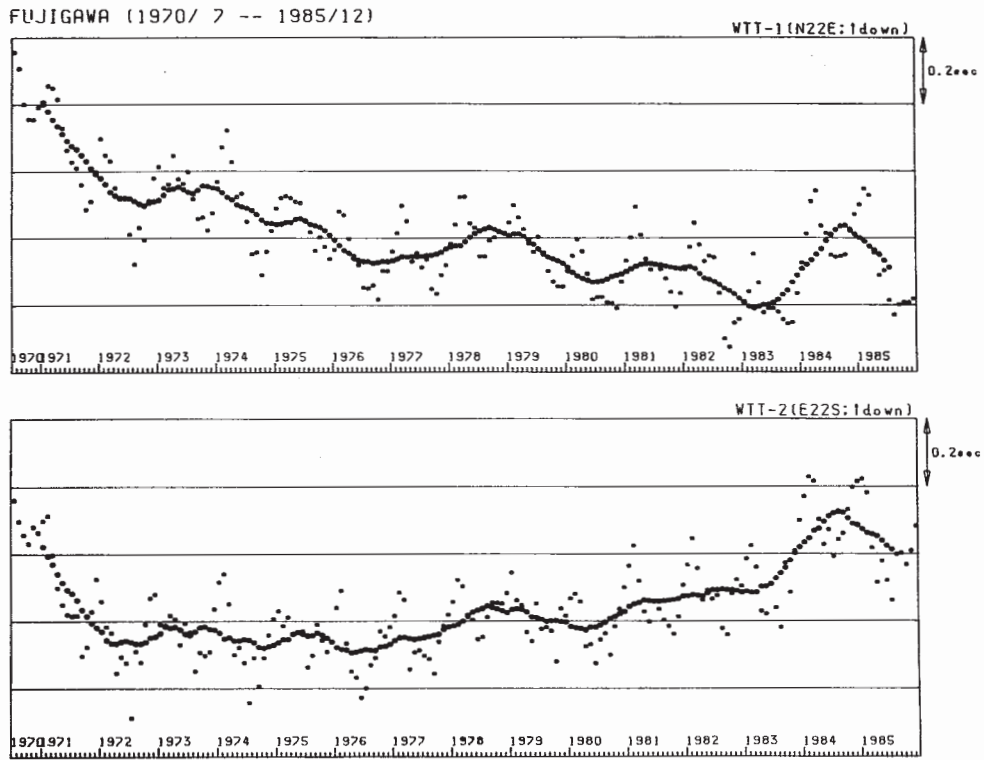
第1图 (a)

Fig. 1 (a) The earth's strain (momentary values at 0h), daily precipitation and water flow rate.



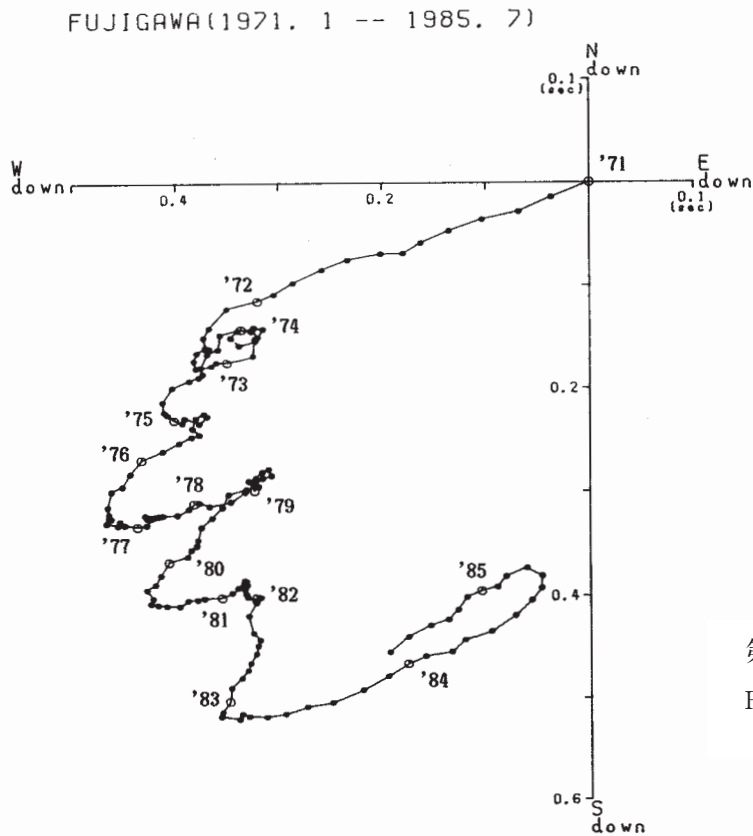
第1图 (b)

Fig. 1 (b) The earth's tilt (solid lines-momentary values at 0h of float type WTT, dots-reading type WTT), daily precipitation, atmospheric pressure, and water flow rate.



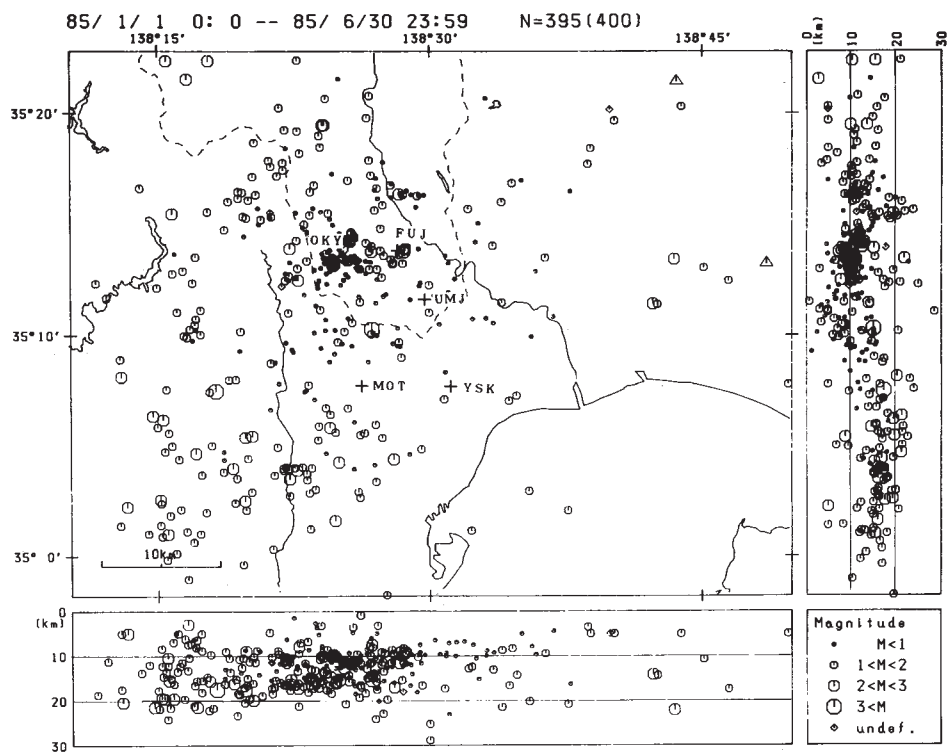
第 2 图

Fig. 2 Cumulative tilt change by reading type WTT (□ = monthly mean; ● = after 12 month' s running mean).



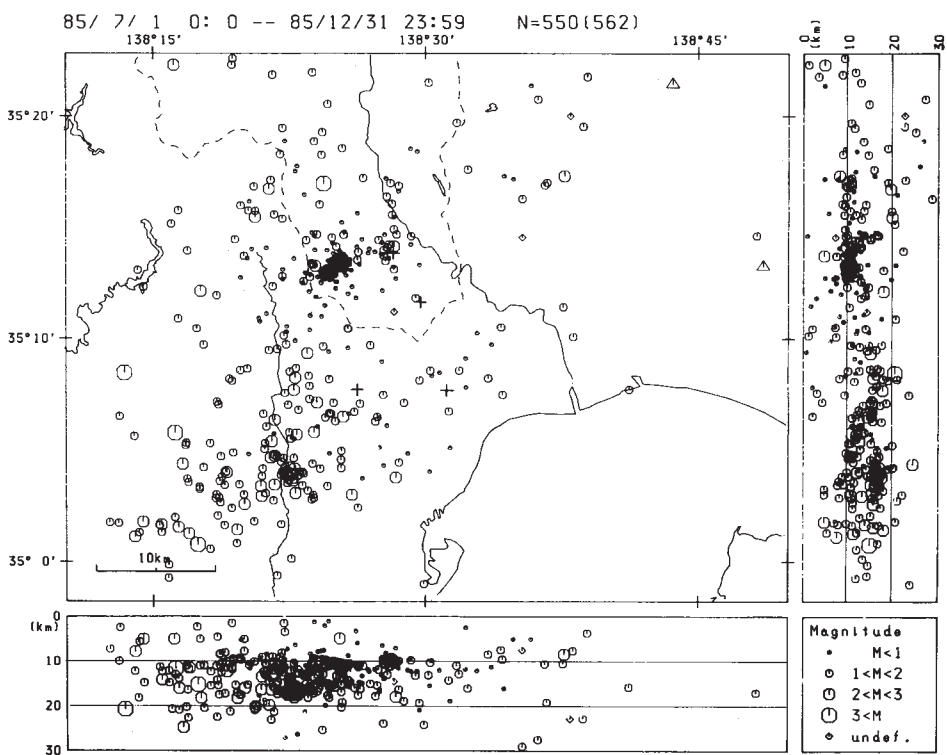
第 3 图

Fig. 3 Vector presentation of the cumulative tilt (after 12 month' s running mean).



第4図 (a)

Fig. 4 (a) Hypocenter distribution near the Fujigawa observatory (January 1 – June 30, 1985).



第4図 (b)

Fig. 4 (b) Hypocenter distribution near the Fujigawa observatory (July 1 – December 31, 1985).